

令和3年度 魅力ある県立学校づくり大賞 優秀賞の取り組み 学校設定教科「防災の学び」と「総合的な探究の時間」 を活用した協働的な探究学習の実践

千葉県立銚子高等学校

本校は、JR総武本線銚子駅の南東1.5キロに位置し、周囲を太平洋、利根川に囲まれた自然豊かな環境に恵まれた場所にあります。銚子市は、ジオパークに認定されており、犬吠埼や屏風ヶ浦など、地質学的に重要な場所が身近に数多く存在しています。

令和3年度は内閣府等主催の「防災教育チャレンジプラン」に採択されました。また、SDGsの理念を踏まえ、生徒自身や地域の課題をテーマに設定し、課題研究を行い、成果発表会として「県銚子アカデミア」を開催し、自らの考えを発表しています。

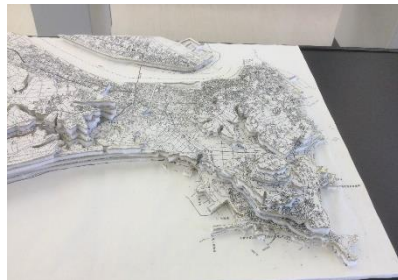
防災の学び

銚子ジオパークと協働し、作成した積層図の範囲を実際に歩き、どのような場所が危険か考える「ジオツアー」を実施しています。生徒からは、「漠然としていた知識がより具体的なものとなった」「銚子の危険箇所を知ることができた」「今後の課題研究にいかしたい」などの声があがっています。

「県銚子アカデミア」を開催し、銚子ジオパーク・銚子市危機管理室・大学・地域の方々を審査員として招き、探究学習の成果を発表しています。また、生徒が付せんに書いた意見や感想を「課題探究の樹」に貼り付けました。生徒からは、「地域の方々から情報を受け取るだけでなく、発信することが必要であることに気付いた」などの声がありました。



〈積層図の作成〉



〈完成した積層図・銚子〉



〈ジオツアー〉

総合的な探究の時間

EU加盟国の大使館員を招き、出前授業「EUがあなたの学校にやってくる」を開催し、EUを身近な存在として知る取り組みを行いました。生徒からは、「EUを身近に感じることができた」「オランダに行ってみたい」などの感想や質問がありました。

2021年6月、ハワイ島の9歳の女の子が、砂浜でメッセージ入りの瓶を発見し開封したところ、1984年に本校が海流調査のために流した瓶の一つであることがわかり、地元のニュースに取り上げられました。2021年9月3日、瓶の内容物が返送されました。今回の発見は、19年ぶり51本目、放流から37年後となります。

令和3年11月24日、東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター長・教授 道田豊先生を招き、SDGs特別授業「様々なものを運ぶ海の流れ」を開催しました。今般の海流瓶をはじめ、海流散布植物の種子、魚などの卵稚仔、近年問題のプラスチックなどが海流でどのように運ばれているかなどについて学び、持続可能な社会のために、海の豊かさを守る心を育成しました。

今後も、学校は地域の中に存在する視点を忘れず、地域のニーズに対応した教育活動を実践してまいります。ご期待ください。